

わがまちの農業委員さん

任期 平成26年7月19日まで

任期満了に伴う農業委員の改選が行われ、新しい農業委員が決まりました。

智 頭			山 形		土 師		
平尾 順一 ☎ 75-1323 市瀬・中島 湯屋・鳥巢 板井原	岩本 年美 ☎ 75-3955 下町・中町 上町・本折 久志谷・段 河原町	小林 善昌 ☎ 75-1355 上市場・奈留 米井・沖代 岡田	浅見 公昭 ☎ 75-3328 篠坂・毛谷 大内・郷原 西野	白岩 淳代 ☎ 75-3782 芦津・八河谷 大呂	会 長		
					山中 眞守 ☎ 75-2045 三田・山根 穂見	小林 功 ☎ 75-1179 木原・三明 塩田・長瀬 天木・横田 石田・紺屋土居	浮田 博司 ☎ 78-0955 大坪・十日市 慶所・山田 土師駅前

那 岐			山 郷		富 沢		
小林 敏郎 ☎ 78-0951 大屋・早瀬 真鹿野	会長職務代理 三輪圭一郎 ☎ 78-0401 野原・奥本 大背	小川 壽朗 ☎ 78-0880 東宇塚・西宇塚	河村百喜平 ☎ 75-3937 尾見・中原	藤原 和寛 ☎ 75-3829 西谷・福原 駒帰	谷口 道紀 ☎ 75-2671 岩神・坂原 中田	西尾 寿行 ☎ 75-0696 惣地・新見	西村 孝司 ☎ 75-3023 口波多・波多 口宇波・宇波

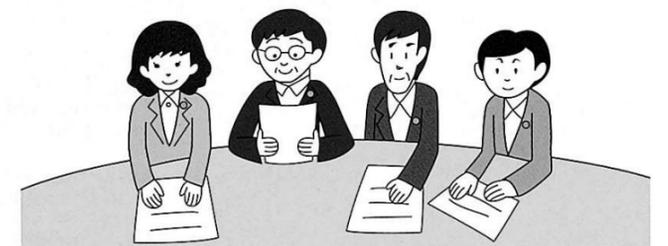
農業委員会はこんな仕事をしています



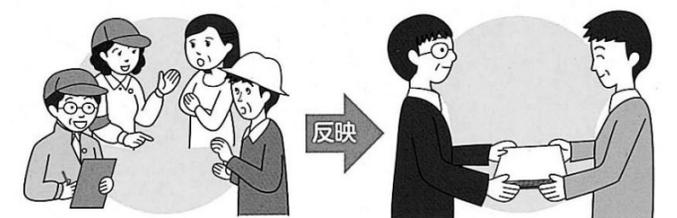
農地パトロール（農地の利用状況調査）の実施

農地法改正により、平成22年度から農地の利用状況調査が義務づけられました。調査に参りましたら、ご協力よろしくお願ひします。

お近くの農業委員にお気軽にご相談ください。
問合せ先 農業委員会事務局 ☎ 75-4121



農地法に基づく許認可



農家・集落などの意見・要望

建 議

智頭の森と村日記 ⑫

丹羽 健 司

●賀露浜地曳網

7月2日、快晴。賀露の浜辺に歓声が響いた。若者たちがロープを持って2隻の漁船からそれぞれザブンと飛び込み泳いで岸辺に向かう。ロープの先には地曳網が連なっている。それをバトンタッチしたら今度は曳き手が掛け声に合わせて曳く番だ。前日まで藤田さんが網のつくりや腰板作りに追われていた。賀露の浜では1年に1回曳くかどうか。地曳網をひく光景も珍しくなった。智頭からは木の宿場プロジェクトの綾木委員長はじめ24人がマイクロボスなどで駆けつけた。賀露からは現役漁師とOBそれに若者含めて21人、念願の海と山、賀露と智頭の交流地曳網の夢が叶った。

西と東に20人ずつ分かれて掛け声に合わせて曳くこと約1時間。岡田さんのいつものジョークにも疲れが見え始めた頃、袋網が浜に近付いてきた。全員注視の中で袋網を引き揚げた。50cm級の黒鯛にタッチウオ、それから、それから…アジとキスが少々…それから、大きなため息(笑)。みんなの肩がガクンと下った。「大漁、大漁、さあバーベキューでビール飲むぞー」。チャッチャと片付けて、かろいちの広場でお待ちかねの海鮮バーベキュー。魚の収穫は少なかつたけど、交流の収穫は大きかつた。

7月27日、徳島大学から石田和之先生に来ていただき、杉小判の2次流通についての勉強会「公共投資、財政支出や定額給付金でも経済効果は1・3程度、もし地域通貨がこの規模で3回転したら社会が変わるような出来事」と講演。それを受けて、ではどうすれば2次流通を加速させるかについて参加者でフリートーク。

●杉小判で

友情のババ抜きを

「山から大変な思いして出してきた使われる杉小判だけえ、それを2次流通させることが地域にとつていいことなら、今度は商店が使い回すように考えなあかんわねえ」杉小判を持って来てくださると、お客さんと話はずむ。その面白さが大事で、それを広げる意味で使うという意識を持つと回りはじめるのでは？「レシの中にも置くよりも、ババ抜きのように、早くよそに回す『善意のババ抜き』を広げれば」と商店。商工会は「すばらしいこと。もっと回るように商工会への払いをできるようにするなど商工会が積極的に関わりたい」。出荷者からは「お中元や、お歳暮に杉小判を贈って、使う人の範囲を広げようと思つた」。寺合町長は「すごい勉強会だ。山が大変なんだから、お店もこの券を現金にせずにもう一回まわそうよという連携だ。そういう意識で杉小判を出す人と受ける人が近づいて行ったら、グルグル回る。杉小判は町外に出ないんだから、本物の活性化になつてくる。最後

杉小判勉強会

7月27日(水) 19:00～
智頭町総合センター中会議室

地域通貨の効能
～温かい貨幣と心地よい経済～

石田 和之
徳島大学大学院

ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部准教授



に藤田さんは「杉小判は、信用の価値というよりも友情の価値だ。現金は便利だけどこの杉小判は便利ではない。便利さよりも心地よさ。そっちに価値がある。お金の価値だけじゃなくて、地域を良くする気持ちよさ。基準になるものをガラッと変えて杉小判を回そう」。

今回は総勢30名あまりで素晴らしいレベルの高い議論が繰り広げられた。木の宿場の説明会や勉強会、毎回商店の参加が増えていることが嬉しく、今後の展開が楽しみだ。